

「特別扱いせず、目標とチャンスを提供」
 フンドーキンでは障がい者を特別扱いすることはありません。「職場指導員養成研修」に参加したり、一緒に働く社員にあらかじめ障がい特性を伝えたり、障がいに対する理解を深める取り組みは行っていますが、本当にそのくらいです。じゃんぶさんが適性を見極めた上で、うちに合う人を紹介してくれますから、業務にも「コミュニケーション」にも問題が生じることはほとんどありません。パソコンに



個人的には雇用を通して、障がいを持つ方の自立や社会参加のお手伝いができれば嬉しいですね。そう話すのは総務部の若林さん。地域に根ざし、地域と共に歩んできたフンドーキンにとって、地域の「一員である障がい者との共生は特別ではなく、当然なのです。」

特別扱いせず、目標とチャンスを提供

詳しいのんちゃん(この後紹介する野々下さん)のように、障がいがあっても素晴らしい才能を秘めている人も大勢います。必要なのは特別扱いではなく、目標を持って、モチベーション高く働ける職場環境を提供することだと思っています。目標の一つとなるのが昇格試験。障がいの有無に関係なく誰でも平等に受けることができる制度を設けており、実際、障がいのある方も多数合格。キャリアアップを目指せるこの制度は、障がい者の活躍の場の拡大、ひいては職場定着にもつながっています。

頑張りや認めること、評価することで可能性が芽吹く。それは全ての社員に与えられたチャンス。「難しく考えるより、みんなと同じように接することが一番なんじゃないかな」。若林さんの言葉に全てが集約されているような気がします。

※1大分県が企業を対象に精神・知的障がい者の特性理解や作業指導について開催した講座。(令和2年度で終了)

**全員に平等のチャンス！
正社員への昇格制度**

年に1回試験を実施。
合格すれば誰でもステップアップすることができる



▲平成30年、厚生労働大臣より、「障害者雇用優良事業所」として表彰されました。

約10年前の大学卒業後、ハローワークに通いながら就職先を探していたのですがなかなか決まらなくて。焦っている時にじゃんぶさんがフンドーキンを紹介されました。配属された企画販促課は上司と私、2人だけの部署。当時始まったばかりのフンドーキンレディースの手伝いや、キャンペーンの企画・集計、商品紹介パンフレットの作成など業務は多岐に渡り、最初はテンパって失敗することも多かったです。ぎこちない電話対応を不振に思

**目標を持って働ける喜び
さらに上を目指し、奮闘中**

厳しい指導に感謝



営業部 企画販促課
野々下 聖さん
内臓疾患

企業現場

Corporate X on-site

〒875-8612
白梓市大字白梓501
TEL.0972-63-2111



**フンドーキン醤油
株式会社**



**長きにわたり、
障がい者雇用に尽力**



▲総務部 総務課 若林 伸一さん

江戸時代末期に創業、160年以上の歴史を歩むフンドーキン醤油株式会社。大分県が全国に誇る老舗メーカーは、昭和50年に大分県知事より心身障害者雇用優良事業所として表彰されるなど、古くから障がい者雇用に力を入れてきました。もちろん、現在も大分県南部を管轄する障害者就業生活支援センターじゃんぶ(通称なかぼつ、裏表紙参照)と密に連携を取りながら積極的に雇用し、10名の障がい者(知的、精神、身体)が工場、営業部などそれぞれの適性に合った部署で生き生きと働いています。「障がい者雇用は企業が果たすべき社会的責任であると同時に、育ててくれた地域への恩返しでもあると考えています。」

われたこともありました。そんな私が少しでも成長できたのは、特別扱いをせず、「野々下ならもつとできるはずだ」と、あたたかく、ときに厳しく指導してくださった上司や、さりげなくフォローしてくれた社員の皆さんのおかげだと思っています。

得意なパソコン作業で貢献

入社して一番大きく変わったのは自分で考えて行動できるようになったこと。常々、仕事は自分で探せといわれていたので、得意だったパソコンを活用して「キャンペーン結果の解析」、「マクロを使った業務の効率化」等、様々なことに取り組みました。

その結果、今では「パソコン関係ならとりあえず野々下に聞け」と言ってもらえるようになり、他部署から頼み事をされることも増えました。頼られるのはやっぱり嬉しいですね。



▲野々下さんが作成した商品パンフレット



目標は上に上がるんですよ！

誰でも受けられる昇格試験の存在は本当にありがたいです。パートで入って、今は正社員。どこまで上がれるかわかりませんが、この先も係長、課長と行けるところまで行けたらと思っています。

野々下さんの担当業務

- フンドーキンレディース*2のサポート
- キャンペーンの企画・集計・プレゼント発送
- 商品紹介パンフレットの作成、画像編集
- ホームページ管理
- その他、販促に関わる業務
- 他部署も含むパソコン関連業務のサポート

*2 フンドーキン醤油株式会社が共催する女子プロゴルフーナメント大会のこと

なかぼつ の 現場

障害者就業・生活支援センター 大分プラザ

〒870-0839 大分市金池南1丁目9番5号 博愛会地域総合支援センター内
TEL.097-574-8668



なかぼつとは？

正式名称は「障害者就業・生活支援センター」ですが、名称が長いので「なかぼつ」と呼んでいます。なかぼつでは、障がい者の職業生活における自立を図るため、雇用、福祉等の関係機関との連携のもと、就業面及び生活面における一体的な支援を行っています。県内には6箇所設置されています。

育んだ絆を大切に 企業、障がい者をサポート

県中部圏域（大分市、臼杵市、津久見市、由布市）を管轄する大分プラザの母体は昭和27年設立の社会福祉法人博愛会。就労移行支援事業所の先駆けともいえる「博愛大学校とリーむ」等を運営し、様々な角度から障がい者に寄り添った支援を行っています。



▲センター長 釘宮 慶太さん

現在、大分プラザには2名の障がい者雇用アドバイザーが在籍。経験豊富な二人は福祉側と企業側 双方の視点に立った支援ができるのが強み。「私たちの仕事は障がい者雇用を考えている企業の悩みや不

70年を超える長い歴史の中で蓄積された知識や経験に基づいた大分プラザの雇用支援は就職件数、定着率ともに県内トップクラス。「昨年は就職件数89件、定着率89.5%でした。障がいのある方と企業さんが相互に努力して下さった結果だと考えます（センター長の釘宮さん）。これはスタッフの熱意なくして実現できる数字ではなく、地域の就労支援を牽引する役割を担っていることがわかります。

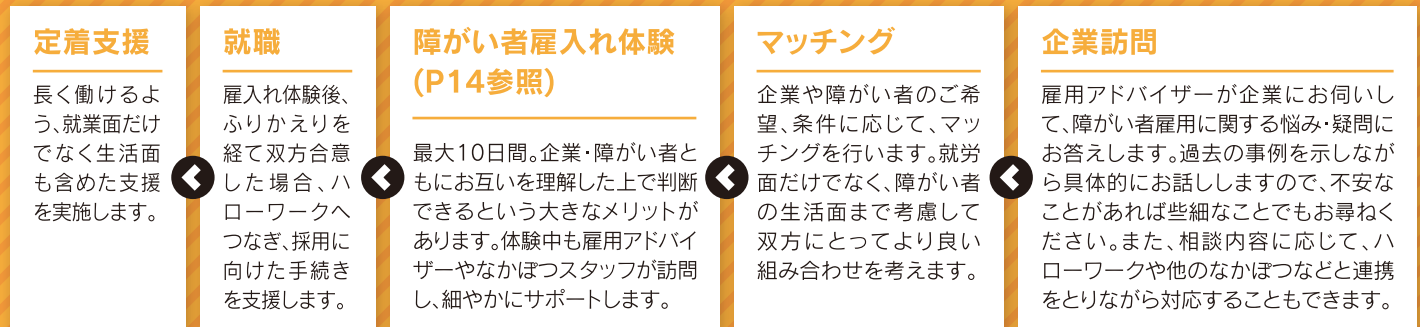


▲障がい者雇用アドバイザー（左）麻生幸男さん、（右）河野伸二さん

安を解消し、条件に合う人材を見つけ、雇用のお手伝いをする。ハローワークなどの関係機関につないだり、障がい者雇用の企業開拓も行っています（河野さん）。また、大分プラザでは、採用後もアドバイザーが定着支援を行い、時には障がい者の生活に関わる部分までフォローすることもあるといいます。「私を信頼して雇用に踏み切ってくれた企業さん、頼りにしてくれた障がい者さんに『はい、ここまでで終わりです』とは言えません（麻生さん）。「私たちが目指すのは、やさしさ日本一の社会福祉法人。根底には初代理事長の『人の喜ぶ顔を見て喜びなさい』という言葉が根付いています。人と人とのつながりや、そこに生まれる想いを大切にしてくれるお二人には感謝しかありません」。釘宮さんも大きな信頼を寄せる誠実なアドバイザーが、その場限りではない支援を通して、就労後も続く確かな「絆」を育んでいます。

※1 特別支援学校高等部等を卒業した障がいのある方が自立を目指し、就労（就労移行支援事業）と生活（宿泊型自立訓練事業）の一体的な支援を2年間行う、全国でも他に類をみない画期的な取り組みを行っている事業所

障がい者雇用支援の流れ



野々下さんの上司にお話を お伺いしました

見違えるように成長



入社当初の上司

企画販促課は他部署をまたぐ仕事を中心で、当時は新事業も多くあったので、入社1年目は会社や仕事に慣れてもらうところからでした。お互いを知るため趣味の話をしたり、外部カウンセラーを交え精神面のケアなどを行いました。2〜3年目は毎朝当日の作業を確認し、ミスが発生しにくい環境を作りました。徐々に野々下さんのパソコンスキルが社内で認知され、仕事内容を深く理解できるようになると、段取りや外部業者との商談にも対応できるようになり、出張時も安心して仕事を任せられるまでに成長しました。

さらなる飛躍を期待

普段は障がいを意識することはほとんどありません。ただ、月初めの報告書提出、繁忙期、イベント関連の業務の際は、順序や内容を説明して無理をしすぎないよう、また、いつも通り冷静に仕事をこなせるように声掛けをしています。今後も、これまで通りスケジュールをしっかりと把握し、野々下さんが自分から積極的に仕事に取り組める環境を作っていきたいですね。企画販促課は2人だけの部署なので他部署とも積極的交流を持ち、人脈を広げ、さらに成長してほしいと思っています。



現在の上司